

管内経済情勢報告

観光は好調に推移し、個人消費は引き続き順調に推移していることから、全体としては緩やかな回復が続いている。

Point

設備投資は減少見込みとなっているものの、観光は好調に推移し、個人消費は引き続き順調に推移しているほか、企業収益は増益見込みとなっている。先行きについても、観光が引き続き好調に推移し、緩やかな回復傾向が続くものと見込まれる。

主要項目の動向

①

個人消費

引き続き順調に推移

個人消費をみると、百貨店は、飲食料品が堅調なことなどから前年を上回っている。主要スーパーは、新規出店もあって主力の飲食料品が堅調なことから、前年を上回っている。コンビニエンスストアも前年を上回っている。

耐久消費財の動向をみると、家電販売は、薄型テレビが好調

主要項目の動向

②

観光

好調に推移



観光を観光入込客数でみると、沖縄ブームが続いており、新空港開港による増便効果などから12ヶ月連続で前年を上回っている。主要ホテルの客室稼働率、客室単価は引き続き前年を上回っている。

このように観光は好調に推移している。先行きについて、予約状況は好調である。

主要項目の動向

③

雇用情勢

改善の動き続く



雇用情勢をみると、新規求人数、県外からの受求人数は増加しており、有効求人倍率は緩やかに改善していることから、改善の動きが続いている。

! 総括判断

H18年1月

緩やかな回復が続いている

H18年4月

緩やかな回復が続いている

前回との比較

その他の
項目の動向

住宅建設 住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲でいずれも前年を下回っているものの、全体としては高水準を維持している。

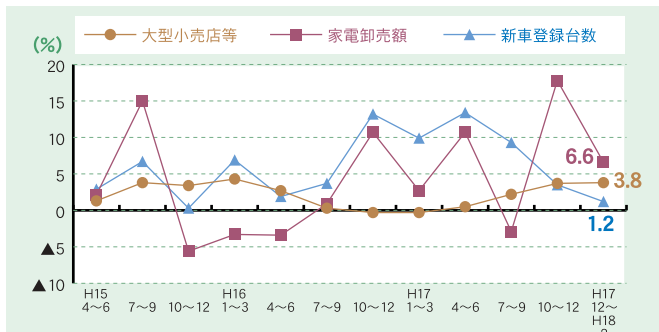
設備投資 17年度の設備投資実績見込み額は、全産業では23・2%の減少と前年度を下回る見込みとなっている。

18年度の設備投資計画額をみると、全産業では44・0%の増加と前年度を上回る見通しとなっている。

公共事業 公共事業の動向を公共工事前払金保証請負額（累計）でみると、前年並となっている。



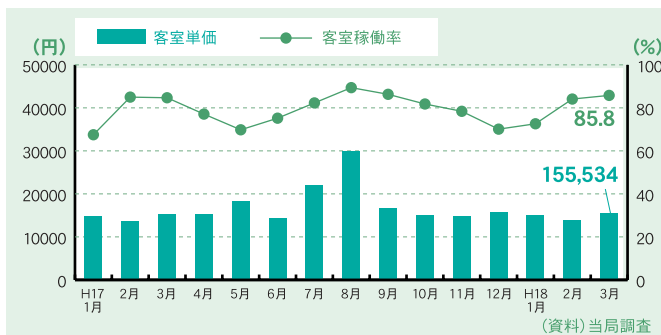
大型小売店等販売額、家電卸売額、新車登録台数(前年比)



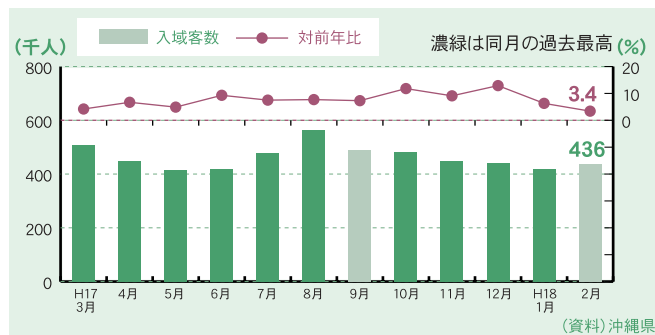
(資料)
百貨店、スーパー、コンビニ、
家電卸売額：当局調査
新車登録台数：
沖縄県自動車販売協会
中古車登録台数：
沖縄県中古車販売協会

なことなどから前年を上回っている。新車販売は小型乗用車が前年を下回っているものの、普通乗用車及び軽自動車が前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。中古車販売は前年を下回っている。
このように、個人消費は引き続き順調に推移している。

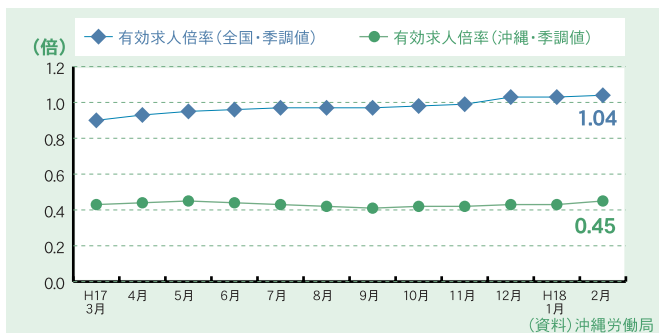
主要ホテルの客室稼働率、客室単価



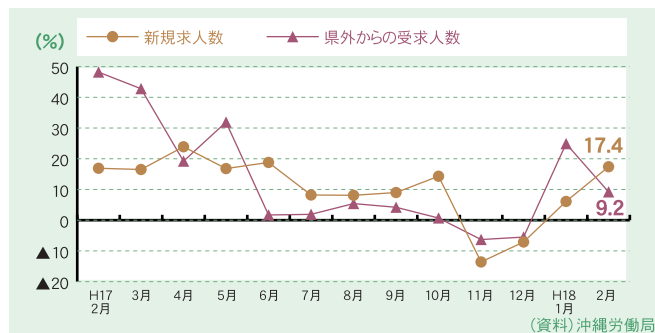
観光入込客数



有効求人倍率



新規求人数、県外からの受入人数(前年比)



企業の景況感 18年1～3月期の貴社の景況判断B S Iをみると、製造業では食料品、窯業・土石製品は下降企業が増加していることから「下降」超に転じている。非製造業では建設は下降企業が増加している一方、不動産、サービスは上昇企業が増加していることから前回と同様に「上昇」と「下降」が均衡している。
この結果、全産業では「下降」超に転じている。

18年度通期も、製造業で「減益」とみているものの、非製造業で「増益」とみていることから、全産業では6・3%の「増益」見通しとなっている。

企業収益 経常利益をみると、17年度通期は、製造業で「減益」とみているものの、非製造業で「増益」とみていることから、全産業では12・0%の「増益」見込みとなっている。

生産活動 生産活動をみると、金属製品では、競合等による受注の減少から前年を下回っている。食料品では、食肉加工品の一部は県外需要が堅調なものの、酒類は前年までの高水準の反動もあって減少していることなどから、前年を下回っている。窯業・土石では、民需向けは高水準を維持しているものの、官公需向けの減少から前年を下回っている。
このように、生産活動はこのところ足踏みがみられる。